

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平4-130514

(43) 公開日 平成4年(1992)11月30日

(51) Int.Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

B 6 0 J 10/04

E 0 6 B 7/23

P 8705-2E

8307-3D

B 6 0 J 1/16

A

審査請求 未請求 請求項の数1(全 2 頁)

(21) 出願番号 実開平3-47051

(22) 出願日 平成3年(1991)5月24日

See
Appar pg 3

(71) 出願人 000241463

豊田合成株式会社

愛知県西春日井郡春日町大字落合字長畑1

番地

(72) 考案者 野崎 政博

愛知県西春日井郡春日町大字落合字長畑1

番地 豊田合成株式会社内

(74) 代理人 弁護士 伊藤 求馬

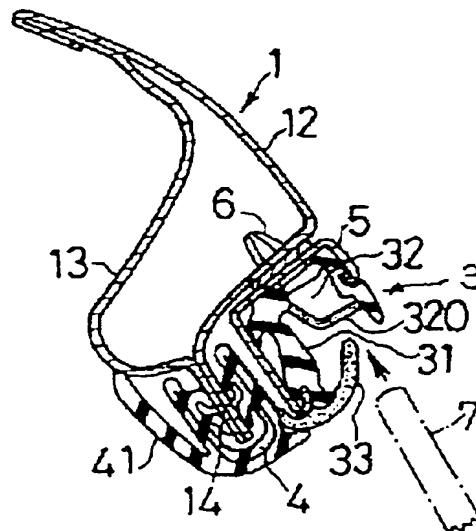
(54) 【考案の名称】 ドアガラスランの取付構造

(57) 【要約】

【目的】 内側にフランジを有するドアフレームにドアガラスランを取付ける構造において、ドアガラスランの取付位置や方向にバラツキのない取付構造とすることを目的とする。

【構成】 ドアガラスラン3を、フランジ14に取付けるトリム4と別体とし、ドアフレーム1のフランジ14よりも車外側の内側面にフレームモール5を取付け、このフレームモール5にドアガラスラン3を嵌着する取付構造とする。

【効果】 方向や長さバラツキが生じやすいフランジ14とは独立にドアガラスラン3を取付けるので、フランジ14の影響がなくドアガラスラン3を所定の位置、方向に取付けることができ、ドアガラスラン3のシール性能およびドアガラス7の閉荷重を安定化することができる。



(2)

実開平4-130514

1

2

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 自動車ドアのドアフレームの内周面から突出するフランジにはトリムを装着し、フランジよりも車外側のドアフレームの内周面にはチャンネル状のフレームモールを取付け、該フレームモールに上記トリムとは別体のドアガラスランを嵌着したことを特徴とするドアガラスランの取付構造。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の第1の実施例を示すもので、図3のA-A線に沿う位置での断面図である。

【図2】 本考案の第2の実施例を示すもので、図3のA

-A線に沿う位置での断面図である。

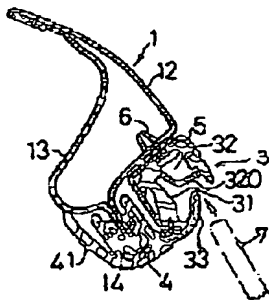
【図3】 自動車ドアの正面図である。

【図4】 従来のドアガラスラン取付構造を示すもので、図3のA-A線に沿う位置での断面図である。

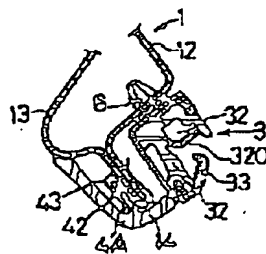
【符号の説明】

- 1 ドアフレーム
- 14 フランジ
- 3 ドアガラスラン
- 4 トリム
- 10 5 フレームモール

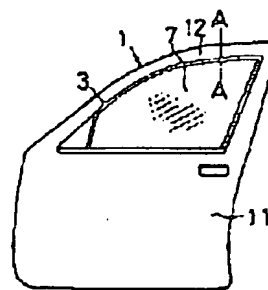
【図1】



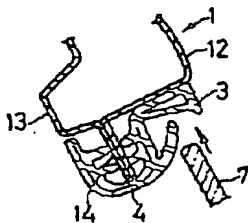
【図2】



【図3】



【図4】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は自動車ドアのドアフレームの内周に沿って取付けられて、ドアガラスの外周縁とドアフレームとの間をシールするドアガラスラン、特にプレスドアのドアフレームに取付けられるドアガラスランの取付構造に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

図3および図4に示すように、プレスドアのドアフレーム1は、ドア外板11と一体プレス成形したドアフレーム外板12に、別にプレス成形したドアフレーム内板13を、その先端縁をドアフレーム外板12とでヘミングし、下端フランジをドアフレーム外板12の下端フランジにスポット溶接して一体のフランジ14とすることにより形成している。

【0003】

そして、トリム4と一体成形したドアガラスラン（以下、単にガラスランという）3を、トリム4を上記フランジ14に嵌着することにより、ドアフレーム2に取付けている（実開昭63-54513号）。なお、7はドアガラスである。

【0004】

【考案が解決しようとする課題】

このようにフランジ14およびトリム4を介してドアフレーム1に取付けられたガラスラン3において、取付位置や傾斜角度に不可避免的にバラツキが生じる。かかるバラツキはガラスラン3のシール性能や、ドアガラス7の閉荷重に影響する。

【0005】

そこで本考案は、ガラスランの取付傾斜角度や位置が一定で、所定のシール性能やドアガラス閉荷重が確保されるガラスランの取付構造を提供することを課題としてなされたものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】

本考案は、プレス成形のバラツキや、ドアフレームの内外板のフランジを重ね合せてスポット溶接するときの位置ずれ等で、フランジ14の傾きや長さバラツキが生じ、このバラツキがガラスラン3の傾きや位置のバラツキの主たる原因となっていることに着目してなされたものである。

【0007】

しかして本考案は、従来は一体としていたガラスラン3とトリム4を別体とし、トリム4のみをフランジ14に取付け、フランジ14とは別にドアフレーム1に取付けたフレームモール5にガラスラン3を取付け、これにより、フランジ14の傾きや長さのバラツキのガラスラン3に対する影響をなくしたものである。

【0008】

【実施例】

図1に示すドアフレーム1において、内周側にはドアフレーム外板12の下端フランジと、ドアフレーム内板13の下端フランジとをスポット溶接して一体化したフランジ14が突出している。フランジ14には断面U字形のトリム4が取付けてある。トリム4には車内側の側面にひれ状のカバー部41が形成してある。

【0009】

ドアフレーム1のフランジ14よりも車外側の内周面には、チャンネル状のフレームモール5が開口側を下方として、クリップ6により固着してある。そしてこのフレームモール5にガラスラン3が嵌着してある。

【0010】

ガラスラン3は、フレームモール5に嵌合する断面形状をなす本体部31と、本体部31の上部に形成したチューブ状のシール部32と、本体部31の車内側の下端から伸び出すシールリップ33を備えている。シール部32のシール壁320およびシールリップ33はスポンジゴムよりなり、他はソリッドゴムよりなる。フレームモール5に嵌入された本体部31は、車外側および車内側の側面に形成した凹所において、フレームモール5の両端に係着される。しかしてドアガラス7が上昇して閉じられるとき、シール部32のシール壁320がドアガラス7により押し上げられてドアガラス7の先端を包み込むようにしてシールされる。

【0011】

図2は他の実施例を示すもので、トリム4Aは断面L字形の板材からなり、上面中央に形成した突起42がS字形のクリップ43によりドアフレーム1のフランジ14に固定されている。他の構造は実質的に先の実施例と同じである。

【0012】

【考案の効果】

本考案では、ガラスラン3は、ドアフレーム1のフランジ14の方向や長さのバラツキの影響を受けない取付けとしてあり、フレームモール5は、その取付位置や方向に微少のバラツキがあったとしても、フランジ14において不可避免的に生じるバラツキ範囲よりも かに小さいから、ガラスラン3は所定のシール性能が得られ、ドアガラス7の閉荷重を所定値とすることができる。